

日本の近代史を見つめてきた風格に、一目惚れ。

シリーズ【オーナーズボイス】第19回 - 富津市・K様 前



私たち古い家が好きだったので民家協会に入っていたんです。それで協会が開催するいろんなところの見学会などに出かけていたのですが、そうした見学会でやけに写真を撮りまくっている人がおられて、気になってお名前を頂戴したんです。それが保川さん（現会長）でした。運命の出会いですね。

御典医の屋敷から銀行と兵隊さんの宿舎、そして今、私たちの家に・・・。

この家は元々は久留里城下に御典医の家として建てられたんですが、明治になってみるべきお殿様もいなくなり御典医様も屋敷を手放してどこかへ



行ってしまわれたんです。その時この家を買ったのが山林業者、いわゆる山師といわれる人でした。この家は釘をいっさい使っていないので全部バラして、別の地に自分の気に入るように建て直そうとしていたらしいのですが、その最中に事業に失敗して未完成のままそこに放置されていたということです。その後、この今の土地の顔利きの方がもう一度バラしてここに運んで建て直したんです。だからこの家、移築のそのまた移築だったんですね。最後の移築は明治30年代みたいです。

いともたやすく壊されていく家の悲鳴に背中を押されました。

とにかくこの家にはいろいろと謂れがあるんです。

そうした謂れを国の調査する人たちが来られて詳しく調べになり、登録有形文化財に申請されませんかっ



再生なった当時の佇まい

おっしゃったんです。当初は手続きとか面倒くさそうだったのでそのまましておいたんです。そうしたところ、うちの近所に久留里藩の家老の家があって、誰も住んでいなくてかなり傷んではいきましたが、その家、玄関が総檜の三間中、襖も映画の大奥に出てくるような幅広のものを揃えた立派な家で、ある不動産屋さんが買い取ったんですね。そしてこんな建物が建っていると売れないからといってコンボを使って2日で壊しちゃったんです。その工事中に酷い仕打ちをされている家の悲鳴が聞こえたような気がして、その声に背中を押されるように、我が家は後世にいつまでも残していこうと文化財登録を申請することに決めました。

座っていながら海が見える、この環境を必死に守ろうと・・・。

今はここから海がよく見えていますが、ここに来た当時は家の前は藪がぼうぼうと茂っていて、海は藪のすき間からチラチラと見える程度だったんです。それが3~4年前に道路を隔てた前の土地が売りに出されることになって、藪がきれいに取り払われたんです。そうしたら、こんなに海がよく見えるんだっていうのがわかって感激したものです。でも前の土地を誰かが買って、家を建ててしま



まうと私たちの家から海が見えなくなってしまい、こちら側からは家の裏側しか見えなくなってしまう、それは嫌だと思

視していたって聞きました。そしてお隣のおばあちゃんは当時頼まれてその方達にお茶を出してあげたりしていたそうです。乃木さん(乃木希典大将)のお手紙もコピーですけど残っています。

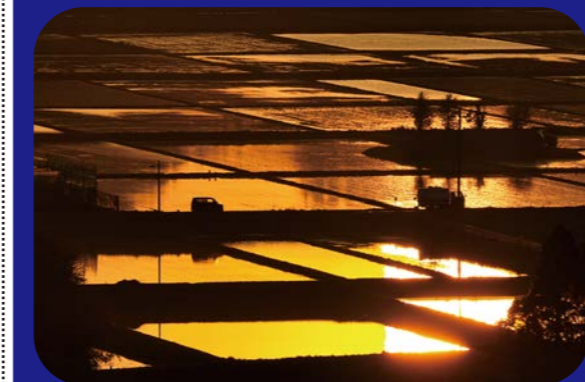
海に向かって祀られた神棚。これだけでも立派な文化財です。

この神棚ですが、幅が一間半あります。もともとこの家にあったもので、屋根が外せるようになっています。そしてその裏に大工さんの名前と住んでいた所の話題とかが書いてあります。それによ



るところに建てられた方が注文して大正の初めに造っておられます。今は天照大神と、うちは熊野の速玉神社からお札を頂戴しているのその神社と、成田山とこの地元の神社を祀っています。うちは頼み事が多いものですから(笑)。彫りなんかもすごく細かいでしょ、まるで本物の神社ですよ。<次号へ>

保川久夫フォトギャラリー



「黄金色の時間」

桜の季節が過ぎ、GWの頃になると当地では田植が最盛期を迎えます。田んぼには水が張られ、農家の方々が忙しく動き回ります。やがてこの田んぼも緑色に変わっていくのですが、その前のわずかな時間、天気の良い日の夕暮れ時など水田が黄金色に染め上げられます。まさにゴールデンウィーク。この時期、秋の黄金色とはまた違う、命の躍動を肌で感じる素晴らしい瞬間を体感する幸せな時を過ごすのです。(保川久夫)

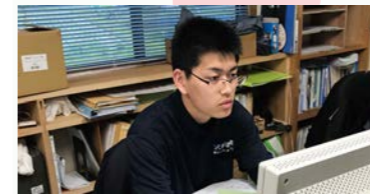
暮らしをおもしろくする仲間になりたい。

2018年度の新入社員をご紹介します。

新しい門出の4月、我が社にも新社会人となった3人が加わりました。高橋悠太、唐澤志歩、榊克也、まさにフレッシュな新人さんです。今はまだ仕事を覚えるべく、研鑽の毎日を過ごしていますが、早くも社内に新鮮な空気を吹き込んでくれているように感じます。これからお客様の楽しい暮らしづくりに、精一杯力を注いでいくことに違いありません。今回は仕事の合い間、3人に集まってもらい話を聞いてみました。これを機会に今後ともどうぞお見知りおきください。

まずは出身地や入社前の学歴を教えてください。

- 高橋悠太



埼玉県出身で、高校・大学で建築を学んできました。

- 唐澤志歩

出身は東京で、京都の大学で建築を学んでいました。

- 榊克也

銚子出身の千葉県人で、技術専門学校で建築を学びました。

保川建設をどうやって知りましたか？

- 高橋

日本民家再生協会に登録されていたことから知りました。

- 唐澤

求人情報サイトで古民家再生のお仕事ができる会社を探していた時に知りました。

- 榊



学校の先生に紹介してもらって知りました。

入社した1ヶ月、振り返ってみての感想を聞かせてもらえますか？

- 高橋

民家再生に関する設計や現場監督業務について、幅広く学びたいと思い入社しました。

- 唐澤

以前から古民家や歴史的な町並みが好きで、古民家再生に関わるお仕事がしたいと考え入社しました。

- 榊

もともと古民家に興味があり、千葉県というところで飛び込みました。早く仕事を覚えたいです！

今後の目標とか抱負をぜひ言ってください！

- 高橋

あっという間の1か月でした。学ぶことが多く、毎日新たな発見の連続です。

- 唐澤

まだまだ分からないことばかりで、毎日新しいことを覚えていくのが大変ではありますが、徐々に仕事に慣れていきたいです。

- 榊

とても良い勉強になっています。

今後の目標とか抱負をぜひ言ってください！

- 高橋

経験と知識を身につけ、現場監督としても設計者としても一人前になれるよう、日々精進していきたいです。

- 唐澤

早く仕事を覚え、お客様に喜んでもらえるようなお仕事をしたいです。よろしくお願いします。

- 榊

早く仕事を覚えたいです！